

地球環境保全行動戦略

令和7年度～令和9年度



都立動物園・水族園で国内初の繁殖に成功した主な動物種

令和4年12月

令和8年改訂「組織改編に伴う変更」

公益財団法人東京動物園協会

恩賜上野動物園

多摩動物公園

葛西臨海水族園

井の頭自然文化園

大島公園動物園

はじめに

地球環境は今、かつてない深刻な危機に直面しています。人間の活動が、気候変動や生態系の変化をもたらし、生物の多様性や人類の健康と生活が脅かされる今日の状況に対して、環境保全への取組が国際的に求められています。

公益財団法人東京動物園協会は、当協会の使命である「人と動物の共存への貢献」を果たすために、生息域内外における希少種の保全に努めるとともに、都立動物園・水族園を「自然への窓口」として人々を生物の世界に誘い、生物の魅力を伝えると同時に、野生生物の危機的状況について普及啓発に努めてきました。

生態系の悪化とともに野生生物の存続がますます危ぶまれる中で、生物多様性を守り、かけがえのない地球環境を次世代に継承していくうえで都立動物園・水族園の果たす役割は大きいと考えています。こうした認識のもと、当協会は都立動物園・水族園が地球環境保全に向けて率先して行動していくための指針として、「地球環境保全行動戦略」を策定します。

1 策定の背景

(1) 地球環境保全に関する国際的な状況

2010年、生物多様性条約戦略計画2011-2022（愛知ターゲット）が採択されるとともに、国連では2011～2020年を「国際生物多様性の10年」と決めました。2015年の国連サミットにおいては、2030年を年限とした「持続可能な開発目標」（SDGs）が示されました。17の指針の中には、気候変動や生物多様性喪失への対応や持続可能な生産と消費等、地球環境保全と密接に関連する項目も含まれています。

2016年には「パリ協定」が発効されました。日本を含むすべての条約加盟国が、温室効果ガスの排出削減や、気候変動による影響への対応を加速的に進めています。

これらを受け、2020年には世界動物園水族館協会（WAZA）が「私たちの地球を守る：世界動物園水族館協会持続可能性戦略 2020-2030」を発表し、SDGsに向けて動物園と水族館が果たすべき役割が明示されました。公益社団法人日本動物園水族館協会（JAZA）も2022年の通常総会決議文において、SDGsの達成と自然共生型社会の実現に向けた動物園水族館の使命と存在意義を明確に掲げています。

また、2021年に開催された生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）第1部では、自然の消失に対して歯止めをかけるだけでなく、自然の回復を積極的に目指す「ネイチャー・ポジティブ」の概念が注目され、翌2022年のCOP15第2部においては、2030年までに海と陸の30%を保全する目標が打ち出されました。

(2) 国・東京都の状況

国において2018年、「第五次環境基本計画」が閣議決定されました。SDGsの考え方も活用し、環境・経済・社会の統合的な向上を具体化することが示されています。また同

年、「気候変動適応法」が施行されるとともに、「第四次循環型社会形成推進基本計画」が決定されました。次期生物多様性国家戦略についても検討が進められています。

2020年には、温室効果ガスの排出量を「全体としてゼロ」にすることを目指し、産業分野の実行計画をまとめた「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」が策定されました。

2019年には、G20の都市が参加するUrban20メイヤーズサミットが東京で開催され、気候変動対策としての脱炭素化が提言されました。これを受けて都は同年「ゼロエミッション東京戦略」を公表し、「東京都気候変動適応方針」や「プラスチック削減プログラム」等を策定して取組を加速させています。

このような中、都は2020年に「第2次都立動物園マスタープラン」を発表しました。生物多様性への貢献や持続可能な社会の実現、気候変動への適切な対応等の項目も含め、SDGsの達成に寄与するために策定した、都立動物園・水族園の方向性を示す10年間の計画です。また、都では2020年から「東京都生物多様性地域戦略」の改定作業が進められており¹、基本戦略として、生物多様性の保全と回復、持続的な利用、一人一人の行動変容等が掲げられています。

(3) 当協会の状況

当協会は前述の「国際生物多様性の10年」を重要な期間ととらえ、「都立動物園・水族園 生物多様性保全活動宣言」を2011年に発表しました。その後も、WAZAの「持続可能性戦略」やJAZAの決議や取組を踏まえるとともに、都の政策連携団体であり都立動物園・水族園の指定管理者である当協会は、都の「第2次都立動物園マスタープラン」の目指す姿を実現するために、飼育展示や教育普及、保全活動や調査研究、関係機関との連携等の取組を進めてきました。

地球環境をめぐる現状を踏まえ、協会は2019年に「地球環境対策委員会」を設置し、環境問題に対して総合的かつ計画的に進める取組を開始しました。本行動戦略も、地球環境対策委員会における検討を踏まえて策定したものです。

2 戦略の位置づけ

「地球環境保全行動戦略」は、当協会が運営する都立動物園・水族園の事業活動において地球環境保全に資する具体的な行動を起こしていくための戦略です。都立動物園・水族園の重要な役割である生物多様性保全の取組を一層強力に推進するとともに、地球環境保全に関わる取組を、第2次都立動物園マスタープランの最終年度である令和12年度までを当面の期間として積極的に進めます。また、運営全般にわたる積極的な行動を通じて、地球環境保全の意義を広く都民等に伝えていきます。

¹ 令和5（2023）年4月改定（<https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/basic/plan/nature/strategy>）

3 戦略の体系

当協会は都の指定管理者として「第2次都立動物園マスタープラン」の目指す姿を達成すべく、飼育展示や教育普及における取組を通じて「生物多様性保全への貢献」を推進しています。

施設維持管理における取組においても、指定管理者事業計画書にも掲げる「地球環境に配慮した施設運営」に積極的に取り組んでいます。

また、当協会の収益事業に関わる施策として、事業由来廃棄物の抑制や資源の循環利用に努め、地球環境負荷低減に取り組んでいます。

これらの視点から当協会は、地球環境保全に向けて、生物多様性保全への貢献、環境課題への対応や組織強化の観点等から4つの戦略を掲げ、実効性のある取組を組織的に推進していきます。

戦略1 生物多様性保全への貢献

(1) 飼育展示における取組

都立動物園・水族園は、生物を健康に飼育するとともに、繁殖の取組を通じて希少種の生息域外保全に貢献しています。国内外の関連施設や研究機関等とのネットワークと連携し、有する知見や技術を最大限に活用して飼育下での繁殖計画を推進するとともに、調査研究や生息域内での保全、アニマルウェルフェア向上にも取り組み、都立動物園・水族園が果たすべき重要な役割の一つである「生物多様性保全への貢献」を積極的に推進します。

(2) 教育普及における取組

動物や自然環境について学び、その尊さを実感することが、地球環境保全のための行動につながる動機付けとして重要です。都立動物園・水族園は、希少動物のみならず、園内や地域の自然も含め、生きた動物がもつ魅力に触れる機会を提供するとともに、多様な媒体等を通じて、動物や自然環境、保全に関する情報を発信し、生物多様性の重要性をあらゆる人々に分け隔てなく、広く伝えます。

戦略2 気候危機への対応

世界的な二酸化炭素排出量の増加に伴って地球温暖化等の気候変動は速度を増し、生態系の変化や生物絶滅のスピードが促進され、生物の多様性に重大な影響をもたらすおそれがあります。また、猛暑や豪雨等の異常気象は、人間の生活にも直接的な危機をもたらしています。動物園・水族館そのものが大量の二酸化炭素を排出する施設であるとの認識を踏まえ、化石燃料由来エネルギーの消費削減や再生可能エネルギーの活用、緑

の適切な保全・管理、環境に配慮した製品の使用等をより一層進めていきます。

戦略3 循環型社会への寄与

大量生産と大量消費が地球環境にもたらしてきた重大な影響を背景に、資源循環型社会への取組が今日強く求められています。動物園・水族館の運営にあたり、飼育部門では動物の糞や残餌、サービス部門においても食品ロスやプラスチック製品等、大量の廃棄物が生じています。こうしたことから、限りある資源の枯渇を防ぐために、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を実践し、事業由来廃棄物の抑制や資源の循環利用に努め、地球環境負荷低減に取り組めます。

戦略4 地球環境保全に貢献する組織基盤の強化

事業活動のあらゆる領域で地球環境保全の先進的な取組を実施し、我が国の動物園・水族館における先導的な役割を果たしていくにあたり、こうした認識を協会全体で共有するため、研修等を通じて職員の意識向上を図ります。また、お客様や関係者から当協会が実施する取組への理解と協力を得るため、事業活動について対外的にわかりやすく伝えていきます。さらに、これらの取組の効果をより一層高めていくため、多様な主体との連携を推進します。

4 行動計画

上記「戦略」を実現するための具体的な取組として「行動計画」を設定し、令和4～6年度の第1期を推進しました²。その成果等を踏まえ、令和7～9年度（第2期）は戦略4「組織基盤の強化」に注力しながら、一層の推進を図っていきます。

戦略1 生物多様性への貢献

（1）飼育展示における取組

行動計画① 希少種の生息域内・域外における保全活動に多様な側面から貢献します

現在、生息地の減少や生態系の変化などの環境問題の深刻化に伴い、数多くの野生生物が危機的な状況に直面しています。都立動物園・水族園は、野生動物の飼育に長年取り組んできた経験から、蓄積してきた知識と技術を活かし、希少動物の保全に貢献していきます。

- 都の「第2次ブーストック計画」を推進するために、野生動物飼育の技術を生かし、国内他園館との連携のもと、積極的な繁殖計画に取り組めます。
- 国内の絶滅危惧種保全について、環境省保護増殖事業等や日本動物園水族館協会（JAZA）の種保存計画に積極的に参画し、域内外の保全活動に貢献します。

主な取組	R7	R8	R9
ブーストック種の飼育繁殖	30 種以上	30 種以上	30 種以上
環境省保護増殖事業との連携事業	環境省の実施する保護増殖事業への協力 		

行動計画② 飼育下におけるアニマルウェルフェアの向上と維持を図ります

今日、飼育下で管理される動物について、生活の質等のアニマルウェルフェアが保障されることが世界的に求められています。また、域外保全を推進する基盤として、アニマルウェルフェアの向上は取り組むべき課題の一つです。都立動物園・水族園では、高いアニマルウェルフェアの水準を維持するための取組を推進します。

- 環境エンリッチメント（注1）やハズバンドリートレーニング（注2）の活用により動物におけるストレス軽減等を図り、アニマルウェルフェアに配慮した飼育管理を推進します。
- アニマルウェルフェアに配慮した動物介在教育活動（ふれあいプログラム等）の実施と検証を行います。

（注1）環境エンリッチメント：飼育動物の福祉や健康の向上を目的として、動物の適切な行動を引き出すための飼育環境や管理手法）

（注2）ハズバンドリートレーニング：動物の健康な飼育と人間の安全な作業を目的として、動物に自発的な行動を取らせるための訓練）

²第1期（令和4～6年度）の振り返りと第2期（令和7～9年度）の方向性はp.15を参照

主な取組	R7	R8	R9
アニマルウェルフェアに配慮した飼育管理	・エンリッチメントやハズバンダリートレーニングの実施 ・令和8年度以降の目標件数設定	・令和7年度に設定した目標に沿ったハズバンダリートレーニングやエンリッチメントの推進 	
アニマルウェルフェアに配慮した動物介在教育活動（ふれあいプログラム等）	・動物介在教育企画書の作成 ・大学と連携したモルモットのストレス評価 ・参加者の学びの評価	・評価と分析等に基づくプログラムの継続的な改善 	

行動計画③ 飼育繁殖事業や調査研究を通じて得られる科学的知見を積極的に情報発信します

動物園・水族館では、適正に動物を飼育・展示するために飼育技術・繁殖技術に関する調査研究を行い、蓄積した知見に基づき、検討と改善を重ねています。新たな知見を国内外の園館や研究者等に共有し、多くの野生生物保全に役立てるために情報発信を一層強化します。

- 日動水飼育技術者研究会等、専門家会議での積極的な発表・報告に努め、飼育繁殖事業や調査研究を通じて得られる科学的知見を積極的に情報発信します。
- 研究データの整理分析、執筆体制の構築等を行い、学術誌への論文掲載を通して新たな知見を発信します。

主な取組	R7	R8	R9
国内外の会議・学会における発表・報告	45件以上	45件以上	45件以上
学術誌への論文掲載	・研究データの整理分析、執筆体制の構築等	執筆・投稿・掲載 	

(2) 教育普及における取組

行動計画① より多くの来園者に向けて、多様な教育普及活動を展開し行動変容を促します

動物園・水族館にとって、野生生物の飼育展示だけでなく、生き物を通じて人々に動物について伝える教育普及活動は重要な役割の一つです。都立動物園・水族園は、東京産動物の状況をはじめ、野生生物保全活動や環境問題を伝える教育普及活動に積極的に取り組みます。

- 包摂的な視点から多様なターゲットやテーマを適切に選択し、世界各地の希少野生動物や生態系の保全を目的とした教育普及活動を実施します。
- 地元の動物や自然環境、島嶼を含む東京に生息する野生動物に関する情報を積極的に発信し、保全の重要性を伝えます。
- 園内や地域の野草や昆虫、野鳥をはじめとする多様な自然を守り、育むとともに、自然環境の現状や変化、保全の重要性を学ぶ教育普及活動のフィールドとして活用します。

主な取組	R7	R8	R9
希少野生動物や生態系の保全を目的とした教育普及活動の実施	・ 国際的な記念日にあわせた情報発信（年 12 件以上） ・ 講演会やシンポジウムの実施（年 6 回以上） ・ 4 園（R8 以降は 5 園）が連携した情報発信（年 2 件以上） 		
東京の野生動物の現状や保全の取組を発信する教育普及活動の実施	・ 身近な動物をテーマにした体験型プログラムの実施（年 12 件以上） ・ 普及啓発のためのリーフレットの制作・配布（8 種以上） 		
園内外の自然を活用し、自然環境の現状や変化、保全の重要性を学ぶ教育普及活動の実施	・ 自然観察を目的とした体験型プログラムの実施（年 12 件以上） ・ 園内の自然観察ガイド等の実施（年 12 件以上） 		

行動計画② 教育機関と連携し、地球環境保全に向けた環境教育をサポートします

動物園・水族館は野生生物の今を伝えるとともに、持続的な未来を考え、その未来を担う子どもたちに環境の保全の重要性を伝えていく役割を担っています。そのために、都立動物園・水族園は教育機関との連携を一層深め、子どもたちの環境教育や保全教育をサポートします。

- 教職員向け研修等、教員との連携を通して、より多くの子どもたちの環境教育や保全教育をサポートします。
- 中高生向けレポートチャレンジや中高大学生向けの教育プログラムを通じて、将来の保全の担い手を育成します。
- 学校教員等との協働による新たな教材や授業の開発と実践を行います。

主な取組	R7	R8	R9
教員ヒアリングや教員向けセミナーの実施	・教員ヒアリングの実施（年5件以上） ・教員向け研修（新たなコースの開発、参加者増の工夫） 		
次世代の担い手である中高大学生向け教育普及活動の強化	・中高生向けレポートチャレンジ実施 ・中高大学生向けの教育プログラム実施（年8件以上） 		
学校教員等との協働による新たな教材や授業の開発と実践	・パッケージ教材の開発（年3件以上） ・授業の開発・実践（年4件以上） 		

戦略2 気候危機への対応

行動計画① 化石燃料由来エネルギーの消費抑制や利用効率化、再生可能エネルギーの利用に努めます

石油や石炭等の化石燃料に伴う二酸化炭素の排出は地球温暖化の主要な原因となっています。枯渇の可能性がある資源の消費を抑制し、効率的な利用を進めるとともに、地球資源の持続的な利用のために再生可能エネルギー等の利用促進に向けて取り組みます。

- 既存設備の更新時に省エネルギー型機器への転換を図るなど、省エネ型設備・機器、再生可能エネルギー設備の導入を推進します。
- 緑のカーテンや遮熱フィルムなどを活用し、温度環境の改善や空調効率の向上を図ります。

主な取組	R7	R8	R9
省エネ型設備・機器、再生可能エネルギー設備の導入	・既存設備の更新時に省エネルギー型機器への転換を推進 ・太陽光発電などの再生可能エネルギーの有効利用策を検討	・既存設備の更新時に省エネルギー型機器への転換を推進 ・太陽光発電などの再生可能エネルギーの有効利用策を試験的に実施	
緑のカーテンや遮熱フィルムなどを活用した温度環境の改善や空調効率の向上	・緑のカーテンによる緑陰環境の創出 ・遮熱フィルムなどの日射対策実施		

行動計画② 園内樹木を適切に管理し、緑の充実・保全と良好な都市環境の形成に努めます

二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの増加によって地球温暖化が進行しています。地球上の大気循環の中で、植物や森林は二酸化炭素の吸収や炭素固定に大きな役割を果たしており、都立動物園・水族園内における緑地の適切な管理は、地球環境の保全に繋がるものと期待されます。

- 園内樹木・樹林を適切に管理し、二酸化炭素の吸収源としての機能を維持するとともに、周辺の公園緑地と一体となって保全・育成することにより、都市のヒートアイランド現象を緩和する等、良好な都市環境の形成に貢献していきます。

主な取組	R7	R8	R9
園内樹木・樹林の良好な管理	・適切な植栽管理を行うとともに、ナラ枯れ被害地の樹林再生を促進		

行動計画③ 地球環境に配慮した行動様式の見直しや事業運営の推進を図ります

地球環境保全のためには、日常の行動様式から見直しを図ることが重要です。当協会では、事業全般における省エネや省資源、適切な施設補修や修繕、地球環境にやさしい設備への転換等を図り、地球環境保全への取組を着実に進めます。

- 業務全般において省エネ、省資源、再利用を促進するほか、DXの視点を取り入れた業務プロセスの改善に取り組みます。
- 大規模修繕によるCO2排出量を抑えるため、施設や設備類を長寿命化できるよう、予防保全的見地から施設補修・修繕を進めます。
- 空調機等の個別更新に際しては、より地球環境にやさしい冷媒を使用した機器への転換を図るとともに法令に基づき関連機器類を的確に管理します。

主な取組	R7	R8	R9
省エネ、省資源、再利用の促進	・クールビズ、ウォームビズの一層の推進 ・執務室一斉消灯（総務部） ・省エネデイの設定（総務部） 		
			・常時使用しないエリアに人感センサー付LED蛍光灯を導入（総務部）
DXの視点を取り入れた業務プロセスの改善	・文書システムの機能拡張 ・決裁手続きのデジタル化検討 ・業務のデジタル化に関する要望等の聴取、整理、検討	・文書システムの機能拡張 ・決裁手続きのデジタル化開発 ・業務デジタル化支援（開発、導入等）	・決裁手続きのデジタル化運用開始 ・業務デジタル化支援（開発、導入等）
施設の長寿命化	・予防保全的見地に立った施設補修・修繕、設備更新等の実施 		
ノンフロン冷媒等を使用する機器への転換	・機器更新の際に、環境負荷の低い機器を順次導入 		

戦略3 循環型社会への寄与

行動計画① 各種資源使用量の削減と再利用を推進します

地球環境保全のためには、限りある資源を効率的かつ持続的に利用する循環型社会への転換が求められています。特に地球環境に甚大な影響を与えている海洋プラスチックごみの削減のために、プラスチック類の適切な回収とリサイクル率を高め、海に流さない取組を推進します。その他に、廃棄物の適切な管理、店舗での各種資材の削減や再利用、維持管理で生じた発生材の再資源化等を進めます。

- 寝藁等の堆肥化委託を実施する等、動物園の飼育展示業務における廃棄物等の削減と資源化に取り組みます。
- 教育普及事業で用いる教材の素材に関する環境配慮を推進するほか、企画展や外部出展などの展示解説において、再利用可能な什器等を積極的に導入します。
- 東京都グリーン購入ガイド及び環境省の「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」に基づく物品調達を行い、飲食・物販店で使用する各種資材等をより環境負荷の低いものに見直すと同時に、再利用を促進します。
- 維持管理で生じた園内樹木等を各種用途に再利用し、「緑の再資源化」を着実に推進します

主な取組	R7	R8	R9
動物園の飼育展示業務における廃棄物等の削減と資源化	・寝藁等の堆肥化委託実施		
	・園内設備での堆肥化等、他園館・自治体等の事例調査	・令和7年度調査に基づき、さらなる削減や資源化策の企画検討	・さらなる削減や資源化策の試行導入または導入計画作成
教育普及事業における各種資材等の見直しや再利用の促進	・クイズシートやワークシート等教材の素材に FSC 認証紙を採用する等、配布物に関する環境配慮の推進 ・園内の企画展や外部出展などの展示解説において、再利用可能な什器等を積極的に導入		
飲食・物販店における各種資材等の見直しや再利用の促進	・環境負荷低減につながる資材等の調査	・調査に基づく資材の切り替え	
緑の再資源化の推進	・剪定枝葉や伐採材、飼育施設で組木として使用した丸太など、維持管理で生じた発生材の再資源化を推進		

行動計画② 飲食店の食品ロス低減に取り組みます

廃棄食品はごみとして焼却され、二酸化炭素を排出して地球温暖化の原因の一つとなるとともに、資源の大きな無駄をもたらしています。当協会は、こうした無駄の抑制のために、運用方法の改善を推進します。

- 飲食店の食品ロスを削減するために調理や販売の方法を常に見直し、より良い運用を目指します。

主な取組	R7	R8	R9
飲食店の食品ロス低減	・園内レストラン、ファーストフード店におけるフードロスの状況分析と改善案の策定	・令和7年度に策定した改善案の実施	・改善案実施後の状況分析を踏まえ適宜再改善

行動計画③ 環境に配慮した国際認証製品の使用など、事業の持続可能性を高める取組を推進します

都立動物園・水族園は年間を通して様々な物品を調達しています。その際、地球環境に配慮した事業運営を行う事業者から調達することはとても重要です。当協会では、国際的に認められた認証制度に適合した原材料や資材の導入を進めるほか、地産地消に貢献する東京都産の食材等の取扱いを通して事業の持続可能性を高めます。

➤ 国内外の認証製品や東京都産等、環境に配慮した製品や食材等の取扱いを拡充します。

主な取組	R7	R8	R9
環境に配慮した国内外の認証製品や食材等の取扱い拡充	・FSC 認証等を使用した商品の拡充に向けた製品の調査 ・国内外の認証製品や東京都産等、環境に配慮した食材の調査	・調査に基づく FSC 認証等を使用した商品の拡充 ・調査に基づく環境に配慮した食材の拡充 	

戦略4 地球環境保全に貢献する組織基盤の強化

行動計画① 地球環境保全の推進に向けた実践的な組織体制を構築します

地球環境保全に向けて、当協会が主体的に考え、行動していくことが極めて大切です。そのため、組織横断的な実施体制を整備するとともに、課題解決に向けて実践的に行動できる人材の育成を図ります。また、都立動物園・水族園だけでなく、多様な主体との連携を深め、保全に資する取組を強力に推進していきます。さらに、これら当協会が取り組む様々な地球環境保全プロジェクトが多くの方々に認知され、当該プロジェクトへの参画・協力が得られるような発信力を強化します。

- 地球環境保全の取組について、協会内の各事業部門を横断する組織体制の構築を行うとともに、職員自身の意識啓発や能力向上を推進し、中長期的な視点を持って組織的に地球環境保全の担い手を育成します。
- 当協会の取り組む地球環境保全行動戦略について、動物園・水族園利用者の理解と協力を得るために、公式ホームページや外部展示会、各種メディア等を通じて取組状況を情報発信します。

主な取組	R7	R8	R9
地球環境保全に関する意識啓発と人材育成	・協会の社会的使命に関する研修時に「地球環境保全」の視点を強化して対象者に実施 		
	・職員自身の行動変容を促す企画（研修プログラム等）を若手中堅職員が主体となり部門横断的に検討	・令和7年度に企画検討した研修プログラム等の試行と検証	・令和8年度の検証を踏まえて研修プログラム等の改良実施
地球環境保全の積極的な情報発信	・公式ホームページを全面刷新し、当協会の「地球環境保全」に関する取組の発信力を強化 ・地球環境保全を主要テーマとした園内イベントや外部展示会等に出展し、対面コミュニケーションを通して情報発信（2回以上）		

行動計画② 多様な主体との連携を強化し、地球環境保全のための事業を推進します

地球環境保全の取組を推進するために、都立動物園・水族園だけでなく、多様な主体との連携を深め、活動への支援を強化するとともに、広い視野のもと、保全に資する取組を強力に推進していきます。

- 助成事業の着実な実施等、野生生物保全基金の運用を通じた域内保全活動の支援を行います。
- 普及啓発プログラムの実施や地域イベント等への参画など、企業・団体・大学・自治体等との連携・協力を推進し、園内外の自然環境の保全に貢献します。

主な取組	R7	R8	R9
野生生物保全基金の運用を通じた域内保全活動の支援	・助成事業の着実な実施による域内保全への貢献 ・助成対象活動報告会の実施、研究成果の定期刊行物への掲載 		
企業・団体・大学・自治体等との連携・協力	・他団体等と連携した普及啓発プログラムの実施や地域イベント等への参画 		
	・連携・協力を通して園内外の自然環境の保全に貢献する新たな企画等の検討	・令和7年度検討に基づく企画の試行と検証	・令和8年度試行の検証結果に基づく連携協力企画の改善

5 戦略の推進体制と進行管理

地球環境保全のための行動を実現するために、当協会は本戦略に基づく行動を主体的、積極的に推進します。組織横断的な実施体制のもと、課題解決に向けて実践的な取組を推進します。

■推進体制

当協会における地球環境保全に関する戦略を立案するとともに、各取組の進行管理及び評価を実施する機関として「地球環境対策委員会」を設置しています。

戦略に沿った取組の推進のために現行の委員会構成をあらたに再編し、委員会の下に「地球環境対策部会」を設置し、各戦略・各行動計画に応じた施策を推進します。部会の運営は既存の会議を活用し、効率的に進めます。

【地球環境対策委員会】

目的	地球環境保全戦略の審議・決定、及び戦略に基づく施策の進行管理並びに評価
構成	委員長 理事長 副委員長 副理事長、常務理事 事務局長 総務部長 委員 ・各園園長 ・事業調整担当部長、総務課長、運営企画課長、戦略広報課長、施設課長、野生生物保全センター所長、教育普及センター所長、公益事業統括課長、経理統括課長、営業課長 【事務局】運営企画課
開催	半期に1回、及び部会からの開催要請に応じて開催

報告



進行管理・評価



【地球環境対策部会】

目的	地球環境保全戦略に応じた施策の推進、及び委員会への報告
構成	事業部門に応じて実施。 飼育展示部門：飼育展示部門の課長・係長から構成される会議 教育普及部門：教育普及部門の課長・係長から構成される会議 施設部門：施設課で個別対応 収益部門：収益部門の課長・係長から構成される会議 管理部門：総務部を中心にして個別対応 【事務局】運営企画課
開催	・各部会は上記会議や個別対応に即して開催する。 ・半期に1回開催される委員会に対し、部会報告を実施する。

■計画の進行管理

本戦略は、4つの戦略を掲げ、実現に向けた具体的な行動計画を掲げています。委員会は毎年、部会からの報告を受け、行動計画の達成状況を把握するとともに、達成状況の評価を実施します。また、評価結果を踏まえ、戦略や行動計画、年次計画の見直しを行います。

第1期（令和4～6年度）の振り返りと第2期（令和7～9年度）の方向性

第1期（R4-6）の振り返りと第2期（R7-9）の方向性

令和4～6年度の実績（例）				
戦略1 生物多様性保全への貢献		戦略2 気候危機への対応	戦略3 循環型社会への寄与	戦略4 組織基盤の強化
飼育展示における取組	教育普及における取組			
 38種/30種以上(R6計画) ズーストック種の繁殖 (R6)	 野生生物の現状を伝える教育普及活動	 再生可能エネルギー100%電力への切替 (R5葛西)	 環境に配慮した製品の導入拡大	 国内最大級の環境展示会に初出展 (R5エコプロ)



- 生物多様性保全への貢献、施設運営にかかる負荷の低減、都民への情報発信強化など、約40の行動計画を概ね達成
- 実効性のある取組の組織的・持続的な推進を図るため、戦略4「組織基盤の強化」により一層注力する必要がある

強化する視点
(令和7～9年度)

戦略 **4**
組織基盤の強化

- ① 地球環境保全に向けて協会職員自らの「意識啓発」と「人材育成」を強化していく
- ② 都政との連携ならびに多様な主体（外部機関等）との「連携・協力」を強化していく

地球のことは、私のこと。未来のことは、今のこと。



職員公募 (R4) を経て採用したキープレーズの活用



持続可能な養殖魚の飼料をテーマとした
水産研究教育機構との連携プログラム (R6葛西)



日野市環境フェアへの出展 (R6多摩)

各取組と SDGs 17 のゴール

戦略	取組	SDGs 17 のゴール																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
		貧困の終焉	飢餓の根絶	健康と福祉	教育の提供	ジェンダー	安全な水	エネルギー	経済成長・雇用	産業と技術	不平等是正	持続可能な都市	生産と消費	気象変動	海の豊かさ	陸の豊かさ	平和と公正	連携・協調
戦略① 生物多様性への貢献	飼育展示における取組	行動計画① 希少種の生息域内・域外における保全活動に多様な側面から貢献します																
		ズーストック種の飼育繁殖													○	○		○
		環境省保護増殖事業との連携事業													○	○		○
		行動計画② 飼育下におけるアニマルウェルフェアの向上と維持を図ります																
		アニマルウェルフェアに配慮した飼育管理													○	○		
		アニマルウェルフェアに配慮した動物介在教育活動			○										○	○		
		行動計画③ 飼育繁殖事業や調査研究を通じて得られる科学的知見を積極的に情報発信します																
	教育普及における取組	国内外の会議・学会における発表・報告			○				○						○	○		
		学術誌への論文掲載			○				○						○	○		
		行動計画① より多くの来園者に向けて、多様な教育普及活動を展開し行動変容を促します																
		希少野生動物や生態系の保全を目的とした教育普及活動の実施			○										○	○		
		東京の野生動物の現状や保全の取組を発信する教育普及活動の実施			○										○	○		
		園内外の自然を活用し、自然環境の現状や変化、保全の重要性を学ぶ教育普及活動の実施			○										○	○		
		行動計画② 教育機関と連携し、地球環境保全に向けた環境教育をサポートします																
		教員ヒアリングや教員向けセミナーの実施			○										○	○		○
		次世代の担い手である中高大学生向け教育普及活動の強化			○										○	○		
		学校教員等との協働による新たな教材や授業の開発と実践			○										○	○		○
戦略② 気候危機への対応	行動計画① 化石燃料由来エネルギーの消費抑制や利用効率化、再生可能エネルギーの利用に努めます																	
	省エネ型設備・機器、再生可能エネルギー設備の導入							○		○		○	○	○	○	○		
	緑のカーテンや遮熱フィルムなどを活用した温度環境の改善や空調効率の向上							○		○		○	○	○	○	○		
	行動計画② 園内樹木を適切に管理し、緑の充実・保全と良好な都市環境の形成に努めます																	
	園内樹木・樹林の良好な管理							○		○		○	○	○	○	○		
	行動計画③ 地球環境に配慮した行動様式の見直しや事業運営の推進を図ります																	
	省エネ、省資源、再利用の促進							○		○		○	○	○	○	○		
	DXの視点を取り入れた業務プロセスの改善							○		○		○	○	○	○	○		
戦略③ 循環型社会への寄与	行動計画① 各種資源使用量の削減と再利用を推進します																	
	動物園の飼育展示業務における廃棄物等の削減と資源化							○		○		○	○		○	○		
	教育普及事業における各種資材等の見直しや再利用の促進							○				○	○	○	○	○		
	飲食・物販店における各種資材等の見直しや再利用の促進							○				○	○	○	○	○		
	緑の再資源化の推進							○				○	○	○	○	○		
	行動計画② 飲食店の食品ロス低減に取り組みます																	
	飲食店の食品ロス低減		○					○		○		○	○		○	○		
	行動計画③ 環境に配慮した国際認証製品の使用など、事業の持続可能性を高める取組を推進します																	
戦略④ 組織基盤の強化	行動計画① 地球環境に貢献する組織基盤の強化																	
	地球環境保全に関する意識啓発と人材育成							○							○	○		
	地球環境保全の積極的な情報発信							○							○	○		○
	行動計画② 多様な主体との連携を強化し、地球環境保全のための事業を推進します																	
	野生生物保全基金の運用を通じた域内保全活動の支援														○	○		○
	企業・団体・大学・自治体等との連携・協力														○	○		○

● 参考資料

「持続可能な開発目標（SDGs）」（国連総合広報センター、2015）

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/sustainable_development_goals/

「第四次循環型社会形成推進基本計画」（環境省、2018）

<https://www.env.go.jp/recycle/circul/keikaku.html>

「ゼロエミッション東京戦略」（東京都、2019）

https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/policy_others/zeroemission_tokyo/strategy.html

「東京都気候変動適応方針」「プラスチック削減プログラム」「ZEV 普及プログラム」（東京都、2019）

https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/policy_others/zeroemission_tokyo/strategy.html

「2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」（経済産業省、2020）

<https://www.meti.go.jp/press/2020/12/20201225012/20201225012.html>

「第2次都立動物園マスタープラン」（東京都、2020）

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/park/zoo/kouen0103.html>

「動物園や水族館で使い捨てプラスチックを減らすには」

（WAZA 環境保全・持続可能性委員会 使い捨てプラスチックに関する作業部会、2020）

https://www.waza.org/wp-content/uploads/2022/02/WAZA-short-guide.jp_.pdf

「保全のための社会変革——世界動物園水族館協会保全戦略」

（国際動物園教育者協会、世界動物園水族館協会、2020）

<https://www.waza.org/wp-content/uploads/2021/05/WAZA-Conservation-Education-Strategy-Japanese-ver..pdf>

「私たちの地球を守る——世界動物園水族館協会持続可能性戦略 2020-2030」

（世界動物園水族館協会、2020）

https://www.waza.org/wp-content/uploads/2021/05/WAZA-Sustainability-Strategy-2020_2030-Japanese-ver..pdf

動物園・水族館での持続可能なパーム油の調達

（世界動物園水族館協会、2021）

https://www.waza.org/wp-content/uploads/2022/01/WAZA-Palm-Oil-Guide..japanese_compressed.pdf

A Guide: Reducing, Measuring, and Offsetting Carbon at your Zoo or Aquarium

（世界動物園水族館協会、2022）

<https://www.waza.org/priorities/sustainability/a-guide-reducing-measuring-and-offsetting-carbon/>

「次期生物多様性国家戦略の策定に向けて」（環境省、2022）

<https://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/initiatives5/index.html>

「東京都生物多様性地域戦略」（東京都、2023）

<https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kankyo/nature-strategy-files-bio-all>

「東京グリーンビズ」（東京都、2023）

https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/seisakukikaku/greenbiz_2023-pdf